

わが

「ほんとうの豊かさを追求する みんなが暮らしやすい 創造と伝統のまち 鶴岡」の実現に向けて

変化に富んだ景観が 広がるまち

鶴岡市は、東北地方の日本海に面する山形県庄内地方の南部に位置します。

市域には、山岳信仰や修験の場として1400年以上の歴史を有する「出羽三山」や、朝日連峰の山々が連なる磐梯朝日国立公園を



自然と信仰が息づく「生まれかわりの旅」 出羽三山（羽黒山2446段の石段）

有し、森林が約7割を占めています。平野部には、美しい水田や畑、多様な野鳥が訪れるラムサール条約登録湿地「大山上池・下池」が

あり、海岸線には砂浜や磯場、港町など変化に富んだ景観が広がっています。

江戸時代には旧庄内藩の城下町として発展し、以来、文化、産業などさまざまな面で当地域をけん引してきました。

豊かな自然や食材を有する ユネスコ食文化創造都市

豊かな自然や日本有数の穀倉地帯、庄内平野を背景に、農林水産業や酒造業などが発展し、全国的にも有名な枝豆「だだちゃ豆」など先祖代々受け継がれた貴重な在来作物が継承されています。山菜やキノコなどの森の恵みがあり、冬の味覚である寒鰯のほか、近年「トラフグ」などの漁獲量も増えています。これらの山、里、海の幸、気候や風土に合った調理



「孟宗」「だだちゃ豆」「庄内柿」「温海かぶ」 先祖代々受け継がれてきた在来作物の一例

法、日本の学校給食発祥の地であるなどといった食文化が評価され、国内で唯一「ユネスコ創造都市ネットワーク（食文化分野）」に認定されています。

歴史文化に彩られたまち・ 三つの日本遺産

市街地には、現在も城下町の風情や町並みが残っています。郊外

の羽黒地域には、明治の元勲・西郷隆盛の教えにより旧庄内藩士が建設した日本最大の蚕室群「松ヶ岡開墾場」が現存しています。また、朝日地域には出羽の古道「六十里越街道」沿いに、暮らしと養蚕が一体となった住居「多層民家」があり、養蚕から絹織物まで一貫工程が残る国内唯一の絹産地として、「サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち」の物語が平成29年に文化庁の日本遺産に登録されています。このほか、江戸時代に広がった出羽三山の「生まれかわりの旅」の物語が平成28年に、さらに、港町・加茂地区の北前船の物語に関わる文化財が令和元年に日本遺産に登録されるなど、全国最多の三つの日本遺産を有しています。また、鶴引地域には約500年にわたって伝承されている国指定重要無形民俗文化財の黒川能があり、温海地域の山戸能と山五十川歌舞伎の二つの伝統芸能、藤島地域の数多くの獅子踊りなど、多くの歴史あ

る民俗芸能が脈々と集落に息づいています。

優れた観光資源・国民保養温泉地とクラゲの加茂水族館

本市には、大小合わせると10を超える温泉が点在し、昔から「湯治」の場として、市民の健康増進に活用されています。中でも「湯田川温泉」「あつみ温泉」「湯野浜温泉」は、江戸時代の温泉番付「諸国温泉効能鑑」にも名が刻まれ、現在三つの源泉全てが環境省の国民保養温泉地に指定されています。

「鶴岡市立加茂水族館」は、クラゲ展示のバイオニアであり、その展示種類数は世界一となっています。これまでのクラゲ類飼育繁殖の功績が評価され、平成10年には個体繁殖に優れた功績があつた国内の動物園および水族館に授与される「古賀賞」を受賞しています。平成26年に「クラゲドリーム館」としてリ



高度な研究機能や関連産業が集積する「鶴岡サイエンスパーク」

学校、東北公益文科大学大学院、慶應義塾大学先端生命科学研究所の四つの高等教育研究機関が集積しています。この慶應義塾大学先端生命科学研究所に近接する場所に研究・産業向けレンタル・ラボの先端研究産業支援センターを設置し、高度な研

ニューアルオープンし、直径5mの世界最大級のクラゲ大水槽を展示する水族館として多くの観光客を魅了しています。

高等教育研究機関の集積・鶴岡サイエンスパークの発展

藩校致道館は、文化2年(1805年)に創設され、東北地方に現存する唯一の藩校建築物となっています。天性に応じた長所を伸ばすことに主眼が置かれ、質実剛健な教育文化の風土を育む土壌となっています。この土壌を基盤に、山形大学農学部、鶴岡工業高等専門

究機能や関連産業を集積する鶴岡サイエンスパークを展開しています。ここでの開発・研究成果を基に、これまで7社のベンチャー企業が誕生し、国立がん研究センター鶴岡連携研究拠点も開設されるなど、バイオ産業集積地の形成が進展しています。

計画がスタートし、各種施策を展開しております。「ほんとうの豊かさ」を追求するみんなが暮らしやすい創造と伝統のまち「鶴岡」を「めざす都市像」とし、市民一人ひとりが幸せと思える豊かさを追求して暮らしやすさを実感でき、次世代につなぐ創造の力と各地域に受け継がれてきた伝統の力が相乗効果を発揮し、発展する鶴岡市を目指してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 1311・53 km²
- ◆ 人口 12万4697人
- ◆ 世帯数 4万8927世帯

〔将来都市像〕ほんとうの豊かさを追求するみんなが暮らしやすい創造と伝統のまち鶴岡

〔まちの特徴〕豊かな自然に恵まれ、城下町の歴史・文化が息づき、先端生命科学を核とした産業イノベーションを推進する、伝統と創造のまち

〔市町村合併〕平成17年10月、鶴岡市、



鶴岡市長
皆川 治



藤島町、羽黒町、櫛引町、朝日村、温海町が合併

〔特産品〕鶴岡シルク、しな織、寒鱈汁、つや姫(米)、だだちゃ豆、庄内柿、温海かぶ、地酒

〔観光〕出羽三山、鶴岡市立加茂水族館、松ヶ岡開墾場、致道博物館、致道館、湯田川温泉、あつみ温泉、湯野浜温泉
〔イベント〕鶴岡天神祭、赤川花火大会、庄内大祭、松例祭、日本海寒鱈まつり、黒川能王祇祭、大山新酒・酒蔵まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「四季かおる つながり 安心 活きるまち」の実現に向けて

自然と利便性を兼ね備えたまち

蓮田市は埼玉県東部に位置し、面積27・28㎢、県内唯一の政令指定都市「さいたま市」に隣接した、人口約6万2千人の市です。市内には元荒川や綾瀬川、黒浜沼などの河川や沼が点在し、水と緑に囲まれた自然豊かなまちです。その一方で、都心から40km圏内と利便



令和元年7月にオープンした東北自動車道新蓮田サービスエリア（上り線）

性が高く、近年ではJR宇都宮線湘南新宿ラインに加えて、上野東京ラインの開通や東北自動車道・蓮田スマートインターチェンジの開設などにより、都心や神奈川方面へのアクセスがさらに便利になりました。また、令和元年7月には、東北自動車道に新し

い蓮田サービスエリア（上り線）がオープンしました。一般道側からも利用できる商業施設は、高速道路を利用される方々だけでなく、近隣住民の方々など大変多くの皆さまにご利用いただいています。広大な駐車スペースに加え、

ヘリポートや防災倉庫をはじめとした、大規模災害における防災拠点機能も備えています。

埼玉一安心・安全なまちづくり

現在本市では、平成30年度にスタートした第5次総合振興計画の中で、市の将来像を「四季かおるつながり 安心 活きるまち」と定めました。「四季かおる」には、潤いのある自然文化の薫るまち、「つながり」には、人々が触れ合う連携・協働によるまち、「安心」に

は安心・安全に生活できるまち、「活きるまち」には、地域の活力を高めるまち、という思いが込められています。全国的に人口減少、

少子高齢化を迎える中で、本市に住んでいる方々が、これからもずっと住み続けたいと感じられるよう、また、誰もが健康で快適に暮らすことのできるよう、「埼玉一安心・安全なまち」を目指しています。現在進行中の主な事業をご紹介します。

蓮田スマートインターチェンジのフルインター化

令和元年9月27日付の国土交通省の発表により、東北自動車道・蓮田スマートインターチェンジのフルインター化が新規事業化箇所を選定されました。整備後は、令和元年7月にオープンした上り線サービスエリアに東京方面への入

り口・宇都宮方面からの出口、今後改築が予定されている下り線サービスエリアに、宇都宮方面への入り口・東京方面からの出口が設置され、大型車の利用も可能となります。

蓮田駅西口第一種市街地再開発事業

これまでに都市計画道路および駅前広場を整備し、現在、再開発ビルを建設しています。ビルは本年10月完成予定で、住宅、診療所、店舗、公益施設が入る14階建ての複合施設となります。市の公益施設には、行政窓口、子育て支援施設、地域包括支援センター、展示



蓮田駅西口再開発ビル「プレックス蓮田」完成イメージ

スペース、調理室および会議室を
設け、令和3年4月のオープン
を予定しています。

高虫西部地区産業団地の整備推進

高虫西部地区は、本市第5次総合振興計画の中で産業集積拠点に位置付けられており、土地区画整理事業（組合施行）による産業団地の整備を目指しています（約26ha）。首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の開通と延伸による地理的優位性を生かし、産業集積と雇用創出により、まちの活性化を図る計画です。

四季を通じた魅力あるイベント

市内では、年間を通して多くの



毎年多くの人出でにぎわう「商工祭さくらまつり」

イベントが開催されています。春には元荒川河川敷公園のソメイヨシノ並木の下で開催される「商工祭さくらまつり」、夏には駅東口のくぼ通りを会場に蓮田音頭やよさこいが披露される「はすだ市民まつり」、秋には休耕田を利用した「コスモスマつり」や「そばまつり」、「食・音・学」をテーマとした「雅楽谷の森フェスティバル」、プロ職人による美味しいスイーツも楽しめる「蓮田マラソン」など、多種多様なイベントに市内・市外から毎年たくさんの方々が訪れます。どの事業も、多くの民間団体により自主的に運営されており、市はそれぞれをバックアップする形で関わっています。

歴史遺産の宝庫

「黒浜貝塚」

本市は歴史遺産の宝庫でもあります。市役所南側に隣接する黒浜貝塚は平成18年7月に国指定史跡になりました（約5ha）。南関東の自然環境の変遷や当時の生業を考えると重要な遺跡であるとともに、関東地方を中心とした約5500年前の縄文時代前期中葉「黒浜式土器」の標式遺跡でもあ

ります。当時の景観を復元し、自然環境学習の場やウォーキング、散策などの市民憩いの場とするため、「国指定史跡黒浜貝塚整備基本構想・基本計画」に基づき、整備を行っています。現在、縄文の森や海の復元、トイレの建設、ガイダンスシステムの設置が完了しました。文化庁および埼玉県と協議を進め、早期完成を目指して取り組んでいます。

プロフィール

- ◆ 面積 27・28km²
- ◆ 人口 6万1616人
- ◆ 世帯数 2万7220世帯

〔将来都市像〕四季かおる つながり安心 活きるまち

〔まちの特徴〕歴史的な財産を継承しながら、豊かな自然と利便性を兼ね備えた、住みやすいまちづくりを目指すまち

〔特産品〕梨、ブドウ、キウイフルーツ、はなみずきみそ



蓮田市長
中野和信



〔観光〕国指定史跡「黒浜貝塚」、埼玉県指定文化財「関戸の式三番」、黒浜沼（緑のトラスト保全第11号地）
〔イベント〕コスモスマつり、そばまつり、商工祭さくらまつり、はすだ市民まつり、雅楽谷の森フェスティバル、蓮田マラソン



国指定史跡黒浜貝塚整備事業「縄文の海エリア」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

新たな城陽「NEW城陽」 ベッドタウンから職住調和都市の実現に向けて

平安京・平城京の中間に位置する『五里五里のさと』

城陽市は、日本文化の中心である京都（平安京）から五里（20km）、奈良（平城京）から五里の、二つの都の中間に位置することから「五里五里のさと」と呼ばれ、交通の要衝として古くから重要な役割



本市で初めての土地区画整理事業による「サンフォルテ城陽」

を果たしてきており、先人が築き上げてきた歴史資源に恵まれています。

狭い市域に、4千年前の縄文時代から奈良時代の史跡がまつまつて所在する地域は、全国的にもあまり見られないため、文化庁からも各時代の人々の営みを、史跡を通じて実際に体験できる貴重な地域という評価を受けており、国指定史跡として6件が指定されています。市南部の長池地区には、大和街道の宿場町としての形態も残されています。

ベッドタウンから「職住調和都市」への転換

戦後のわが国における高度経済成長とともに、農村地帯であった本市は、京都市、大阪市の近郊であることから人口が急増し、ベッ

ドタウンが形成されました。しかし近年、近隣都市に比べて人口減少、少子高齢化が一足早く進み、「日本創成会議」の増田レポートでも「消滅可能性都市」に位置付けられるなど、多くの課題を抱えています。

平成24年4月に、市域を横断する新名神高速道路の建設凍結が解除されたことを受け、令和5年度の全線開通をめどに、その整備効果を生かしたまちづくりを進めるため各種プロジェクトを展開しています。

新たな産業誘導と地域資源の積極活用により地域経済の活性化を図り、良好な住環境を維持しつつ、雇用確保はもとより、にぎわいや活力ある産業・経済活動を行うことにより、大都市依存型のベッドタウンから職住の調和した



特産イチジクによる4シェフ競演

自立（自律）都市への転換を目指しています。

地理的優位性を生かしたハブエリアへ

（1）調和ある外来型開発と内発的發展

本市が初めて土地区画整理事業として整備し、平成31年3月にまちびらきが行われた新市街地「サンフォルテ城陽」や、民間開発の「京都山城白坂テクノパーク」といった産業拠点の整備、(株)ログス



屋内でテント泊などが楽しめる「ログスランド」

コーポレーションを指定管理者として令和元年6月にグランドオーブンした総合アウトドアレジャー施設「ログスランド」、また、東部丘陵地において新名神高速道路開通時に開業が予定されているプレミアム・アウトレットや、広域的な交通利便性を生かした物流拠点の整備など、新たな産業誘導を進めています。

併せて、地域の農業や商工業の内発的発展を促すため、人とモノが行き交うハブ都市を目指す「京都城陽産業かがやきビジョン」、6次産業化・農商工連携のための「オール城陽で進める 1×2×3

推進プラン」を相次いで策定し、特産物を生かした新商品開発や食のイベントなどを新たに展開しています。

(2) 緑に囲まれた新都市・東部丘陵地整備

約420haに及ぶ砂利採取跡地の土地利用計画として、先行整備の長池地区においては、三菱地所グループによる京都市内初となるプレミアム・アウトレット開業に向けた取り組みが進められています。また、同じく先行整備の青谷地区においては、新名神高速道路宇治田原IC(仮称)の隣接地に位置する地理的優位性を生かした基幹的物流拠点の整備を図るため、企業誘致に取り組んでいます。

長池地区の直近に位置する新名神高速道路の城陽スマートIC(仮称)については、新名神高速道路の本線と共に事業着手しており、令和5年度の開通に向けて事業が進められています。スマートIC付近から木津川市に至る、延長約11kmの国道24号城陽井手木津川バイパスについては、令和元年度に国の直轄事業として新規事業化されたところです。また、京都市立木津川運動公園についても、

一部開園済みの南側区域の全面供用が図られるとともに、未整備となつている北側区域については、京都市設置の懇話会において本年度の計画策定に向けた取り組みが進められています。

残る中間エリアについても、地権者などの意向、協議などを踏まえ、段階的に市街化区域に編入し、土地利用を図っていきます。

このように、整備の進む高速交

プロフィール

- ◆ 面積 32・71km²
- ◆ 人口 7万4476人
- ◆ 世帯数 3万314世帯

〔将来都市像〕歴史と未来をつなぎ、人をはぐくむ、緑のまち・城陽

〔まちの特徴〕自然に囲まれた良好な住環境と高速交通網を生かした新都市建設が調和する未来が楽しみなまち

〔特産品〕てん茶、梅(城州白)、イチ



城陽市長
奥田敏晴



ジク、寺田イモ、湧水花き、金銀糸
〔観光〕ログスランド、サンガタウン城陽、京都市立木津川運動公園、城陽カントリー倶楽部
〔イベント〕青谷梅林梅まつり、宇治茶・山城こちそうフェスタ、城陽秋火大会、城陽茶まつり、JOYO産業まつり、TWINKLE JOYO

通網や近畿圏随一の大規模開発可能地、京都と奈良、阪神と中京の中間位置という地理的優位性、京都の大学・企業、木津川対岸の関西文化学術研究都市の存在など、恵まれた地域資源と広域連携により、次世代を見据えた近畿圏最大のプロジェクトがここ京都城陽を中心に展開され、京都・山城地域が近畿圏をリードするハブエリアとして発展することが期待されています。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

自然と文化、産業が紡ぎ織りなすまち 未来にわたって 人が輝くまちを目指して

自然豊かで優れた芸術文化を体感できるまち

井原市は、岡山県西南部に位置し、一級河川高梁川支流の小田川が、市の南部を西から東へ貫流し、その流域の平野部に市街地が形成されています。北部は、標高200〜400mの丘陵地帯で吉備高原へと続いており、豊かな自然と都市機能のバランスが取れたまちといえます。

また、本市は、近代彫刻界の巨匠として知られる「平櫛田中」の生誕地であり、田中作品の収蔵、



井原市立田中美術館・新館パース図(令和5年4月完成予定)

備高原へと続いており、豊かな自然と都市機能のバランスが取れたまちといえます。また、本市は、近代彫刻界の巨匠として知られる「平櫛田中」の生誕地であり、田中作品の収蔵、

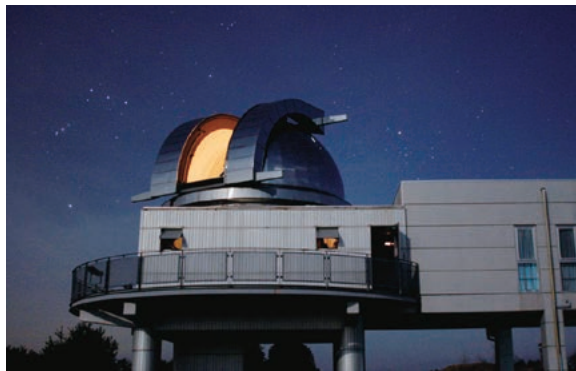
展示数で日本一を誇る「井原市立田中美術館」があります。現在、美術館のリニューアルに向けた実

施設計を行っており、令和5年4月に市の新たな文化交流拠点として開館する予定です。

美しい星空のまち「星の郷」
星空保護区認定を目指して

その昔、三つの流れ星がこの地に落ちたとの伝承も残る美星地区。晴天率が高い瀬戸内式気候に恵まれ、なだらかな地形のため、気流が安定していることから、その名の通り美しい星空の鑑賞に適しており、口径101cmの望遠鏡を持つ、国内有数の公開天文台である「美星天文台」は天文ファンでにぎわっています。

この美しい星空を守るため、人工光による光害を防ぐことを目的



星空観賞に最適な美星天文台。誰でも気軽に天体観測が可能

に、日本で最初に「光害防止条例」を定め、まちを挙げて星空を守っています。現在、地元観光協会と連携し、国際ダークスカイ協会による星空保護区の認定を目指して、夜空に光が漏れない光害対策型の街灯に取り換える活動を進めています。

地域ブランド
高付加価値化を目指して

明治から大正時代に本市で大量生産され、海外へも盛んに輸出されていた「備中小倉」という厚地藍染綿織物は作業着に向く丈夫なもので、表面が藍色、裏面が生成(白色)であるという点が米国の「DENIM」と同じだったことから、国産デニムのルーツとされ、本市は「デニムの聖地」といわれています。そうした歴史を秘めた「井原デニム」は、有名ブランドの生地として使用されるなど、世界的にも高い評価を得ており、今ではスーツや小物、バッグや着物など、伝統に裏打ちされた新しい魅力ある商品が開発されています。

現在、本市中心部の新町商店街一帯で、商店主団体などの手により、この「井原デニム」を活用した新たなまちづくりが進められており、本市も強力に支援しているところ。商店街の衰退が進む



丈夫さはもちろんバリエーションの豊かさも大きな魅力の「井原デニム」

中、産業観光地への転換をコンセプトに、令和元年度から3年計画で事業に着手し、今春には内装や調度品にデニムを用いたホテルや地元食材を堪能できるオーベルジュがオープンしました。また、デニムを使った縫製や加工などの体験ができるショップや軽食喫茶、テラスなどを備えた「BARA DENIM SQUARE GARDEN（イバラデニムスクエアガーデン）」も開館しました。今後、空き家・空き店舗にデニム関連ショップを誘致し、「デニムストリート」化を図る計画で、新たなにぎわいを創出するものとして大いに期待しています。

また、1年を通して温暖な気候に恵まれ、ブドウ栽培に適した本市では、昭和30年代に栽培が広がり、現在の栽培面積は県内トップクラスとなっています。品種は、ニューピオーネ、ニューベリーA、オーロラブラッ

ク、シャインマスカットなど多彩で、いずれも品質の高さから県内外を問わず好評を博しています。その他にも、香りが良く、品質の高い「明治ごんぼう」や肉加工品など、地域の特性を生かした農産・畜産物も数多く作られています。担い手の育成をはじめ、多様な食資源を生かすため、特産品のブランド化や6次産業化などによる高付加価値化に努めています。

まちの未来を創る いばらっ子の育成

「日本資本主義の父」と称され、令和3年NHK大河ドラマに取り上げられる「渋沢栄一」は、幕末に一橋家の家臣として井原を訪れ、本市出身の漢学者「阪谷朗廬」^{さかたけらうろう}と親交を深めました。その阪谷朗廬が初代館長を務めた興譲館^{こうじょうくわん}高校の女子陸上部は、全国高校駅伝に21年連続出場する強豪校です。また、県立井原高校男子新体操部は、令和元年のインターハイで3年ぶり5度目の優勝を果たしました。こうした活躍は、子どもたちに夢と感動をもたらし、地域への誇りを実感させてくれます。

本市としましても、まちの将来

を担う人材の育成や確保という最重要課題の解決に向け、新たに「ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業」を立ち上げました。地域の宝である子どもたちが、ふるさとへの愛着と誇りを持ち、「ふるさと井原」を自らの活躍の場として選んで能動的に関わろうとする人材の成長を、産学官民が連携・協働して支援するネットワーク構築に力を入れています。

ふるさと井原の魅力的な「もの」「ひと」「しごと」と出会い、関わることで豊かな体験学習や地域活動を積極的に取り入れることで、ふるさとを愛し、ふるさとのためになることを実行し、よりよい未来を自らの手で創り出そうとする高い志と熱い思いを持った人材の育成を促進し、将来にわたって市民が生き生きと輝くまちを目指しています。

プロフィール

- ◆ 面積 243.54 km²
- ◆ 人口 3万9672人
- ◆ 世帯数 1万6791世帯

〔将来都市像〕まちづくりの基本理念「輝くひとと未来創造都市いばら」

〔まちの特徴〕古くから繊維産業を中心に発展。温和な気候に恵まれ、里山や田園など美しい自然に囲まれた暮らしやすいまち

〔市町村合併〕平成17年3月1日、後月都芳井町、小田郡美星町と合併



井原市長 大舌 勲



〔特産品〕井原デニム、ブドウ、明治ごんぼう、肉加工品

〔観光〕井原市立田中美術館、美星天文台、星の郷青空市、葡萄酒浪漫館、経ヶ丸グリーンパーク、中世夢が原、井原デニムストア、天神峡、嫁いらず観音院

〔イベント〕与一まつり、井原市北条早雲まつり、屋外音楽イベント、明治ごんぼう村フェスティバル

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。